

IM 西オーストラリア(バッセルトン)2012.12.9 低画素

Sugimoto

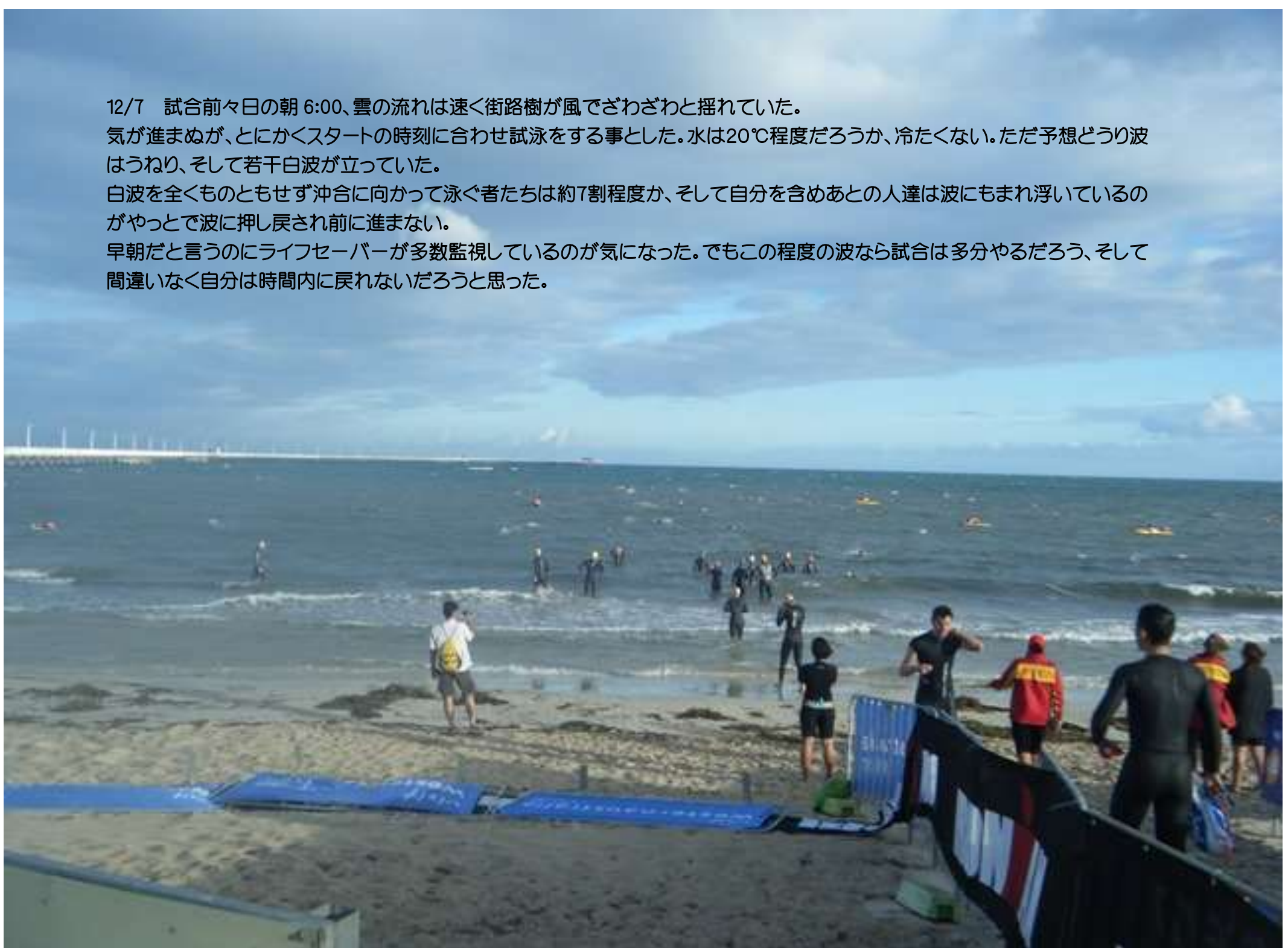
今年で4回目となるバッセルトン。

今回は今ここに来ただけでもよし、と思わなければいけないと思った。バイク自爆転倒事故に端を発し数カ月のブランクをつくってしまい、未だに貧血状態は解消していないが何とか試合に出る事が出来るまでに回復し今ここに居る事がうれしかったし、感謝しなければならなかった。

今年羽田発で12/6未明に出発、シンガポールでの乗継もスムーズ、ギラギラとさす太陽光がまぶしい(紫外線量が日本の7倍とか)パースに到着。バスで3時間半、一直線に伸びる平原を走り抜け12/6夕方バッセルトンに到着した。

天候は何時になく荒れ気味で、晴れてみたり、時々小雨交じりだったり雲行きが激しい不安定な空模様だ。荷物の整理もそこそこにまずは夕食、街へと繰り出し行き慣れた中華飯店に向かった。

12/7 試合前々日の朝 6:00、雲の流れは速く街路樹が風でざわざわと揺れていた。
気が進まぬが、とにかくスタートの時刻に合わせ試泳をする事とした。水は20℃程度だろうか、冷たくない。ただ予想どおり波はうねり、そして若干白波が立っていた。
白波を全くものともせず沖合に向かって泳ぐ者たちは約7割程度か、そして自分を含めあとの人達は波にもまれ浮いているのがやっとで波に押し戻され前に進まない。
早朝だと言うのにライフセーバーが多数監視しているのが気になった。でもこの程度の波なら試合は多分やるだろう、そして間違いなく自分は時間内に戻れないだろうと思った。



12/7 午後バイクを組み立て、コースを試走、やっぱり風が強い。ひ弱な自分は？風に仰られ試走どころではない、早々に終了。

そしてこの風の中デープリム、TT バイクを乗りこなすこの人達と自分は何処が違うのだろうか？と思ってしまう。

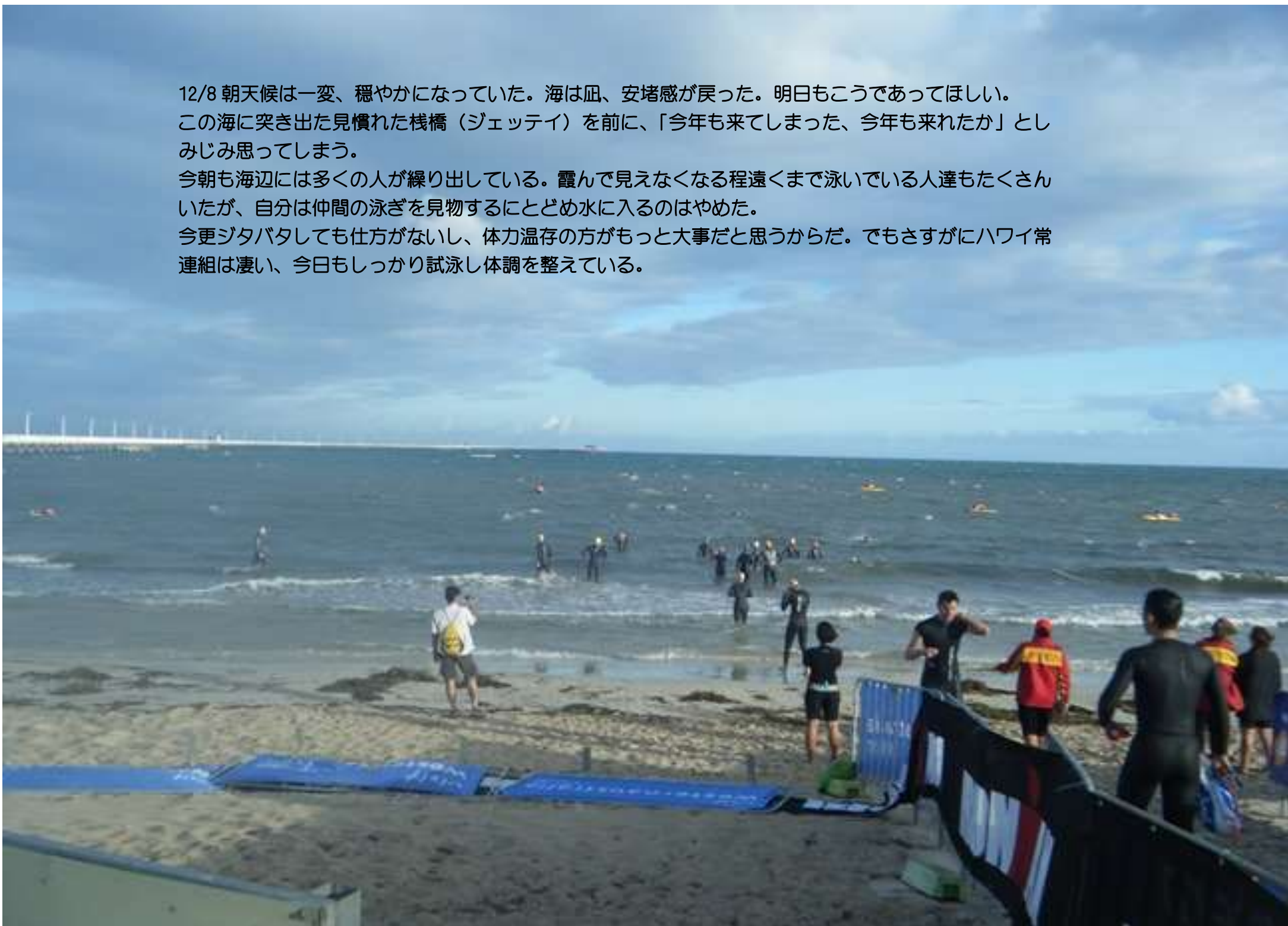
今宵はカーボパーティと説明会がある
しっかり食べておこう



12/8 朝天候は一変、穏やかになっていた。海は凪、安堵感が戻った。明日もこうであってほしい。この海に突き出た見慣れた桟橋（ジェットイ）を前に、「今年も来てしまった、今年も来れたか」としみじみ思ってしまう。

今朝も海辺には多くの人が繰り出している。霞んで見えなくなる程遠くまで泳いでいる人達もたくさんいたが、自分は仲間の泳ぎを見物するにとどめ水に入るのはやめた。

今更ジタバタしても仕方がないし、体力温存の方がもっと大事だと思うからだ。でもさすがにハワイ常連組は凄い、今日もしっかり試泳し体調を整えている。



昨日風が強くそこそこにバイクをやめてしまったので、今日は預託前にメカチェックを兼ねて少しだけバイクに乗る事にした。

バイクコースは全く昨年と同じなので特に心配事はないが、気になる事は路面と風の向きと強さだ。

このコースは全くのフラットな為かデープリム、ディスクホイール付のTTバイクが多くノーマルホイールはほんとは少数派だ。

バイクラックにセットするバイクの間隔はゆったりとしておりバイクの向きも自由との事だった。



バイクを預託してしまえばもうやる事はない、明朝の試合開始を待つだけとなる。
昨日は波が強かった為、海が濁っていたが今日は澄んでいてきれいだ。
海に向かってほぼ北に延びているこの棧橋(ジェッテイ)は昨年までの修理、改修工事が終わり完成しており、トロッコ列車が運行されている。歩行でも有料だったがスイムの折り返し地点を確認すべく棧橋の先端に向かった。
この絵は棧橋の先端から陸地を見たもので、風向翼は北西方向からの海風を示していた。





12/9 試合当日朝 3:00 起床。これまで試合前日の夜は寝つけず殆んど眠りが浅いまま朝を迎えていた。今回同室の H さんから頂いた睡眠導入剤を初めて服用してみた(前日効果をテスト済み)。結果はよく効いて朝眠った実感があった。

気温は17℃天気は晴れ、風も気にならない。まずまずの天気の様だ。4:15 バイクの点検、補給食をセットする為、暗闇の中をバイクラックに向かった。

そしてホテルに戻りウエットスーツを着てスタート地点に向かう。何と言ってもスタート地点に近いこのホテルだから出来るメリットだ。

<スイム編>

我々は5:45プロがスタートしてから15分後、いっせいにスタートした。

海は凪とまでは言えないが波が崩れることもない、ただし海風に押し戻され進まない気がした。間もなく何時もの様に周りの人影は消え一人旅が始まる。そしてたまに平泳ぎで頑張っている人に出会うことがある、多分彼らは自分と同じスイムが苦手な仲間だろうか。

ジェッティの先端を回り帰路に入り、しばらくは気分良く泳げた。

あと陸まで残り500m程度であろうか、今年も昨年同様右に流されていく事に気づいた。既に疲労感は相当なものでままにならないが、しかし遅々として進まない焦りはあっても昨年のような悲壮感はなかった。(1:56)

<バイク編>

トランジションでは2人がかりでウエットスーツを脱がしてくれる。そしてバイクラックからバイク出発ゲイトまでバイクを運んでくれた。自分はエネルギーチャージをしたりしながら、時々屈伸運動をしてバイクゲイトに向かった。

ほとんどタイムを気にする感覚も失せる程、全身に疲労を感じていた。でも全く焦る気もなく淡々と回復を待っていたかもしれない。これも昨年の体験からそうするしかないと考えたからだろう。時速25km程度で慎重にバイクパートは始まった。

バイクを開始するやいなや先頭グループは自分を周回遅れにしてゆく(3周回コース)。彼らの平均スピードは35~40km/hだろう。

折り返しコースに入りやっと自分の位置関係が気になりだした。それを知る指標としてスイムが得意な小島さんを探し、ほぼ予想どおり昨年と同じ地点ですれ違い、まずまずこんなものだろうと安堵した。約20分の遅れである。

今年も補給食は、ご飯2パック分の塩鮭を入れた10個のおにぎり、さらにソイジョイ等、計約1500kcal程度を持参した。

今日は暑く乾燥した天候が予想されたので、味噌汁ボトルで塩分補給は万全を期した。3年前の脱水リタイアで得た教訓から実施しているもので、あの二の前はしたくない。時間を意識して水分とエネルギーの補給をした。

ただただ単調なコースを淡々と漕いでいると、2周回目(約80km地点)頃から、いつしか睡魔に襲われてしまった。やっぱり疲れていて昨年と同じ様な事態が起きていると思えたが、何ともしがたく眠かった。多分時々蛇行しながら走っていたのだろうか、対向バイクに接近し声をかけられびっくりして目が覚めた。緊張感が足りない。

次々とバイク終了する人達を横目に3周回目に入ったら途端にバイクはまばらになり、たまには落ちこぼれた人をパスする事はあったが、やがて前にも後方にもバイクを見る事は本当にまれになってくる。(7:18)

<ラン編>

ゴール地点が市街地から海岸近くに変っただけであとは昨年と同じ4周回のコース。

バイクを終わってみてどうやら昨年と同じ様な経過をたどっている気がしてならなかった。スイムでの疲労困憊、バイクでの睡魔との戦い、風に立ち向かう気力もなく、そしてタイムを気にする気迫もない。

そしてランに入ってもそんな状態は続いた。特に脚に痙攣が起きたり故障が起きている訳ではない、しいて言えば足に底まめが出来ている程度だ。ただただ脚が耐え難く重い、乳酸がいっぱい詰まっているのだろうか。少しは頑張ってみようと試みても重い脚を前に進める事も心拍数の維持も出来ずすぐ息切れしてしまう。昨年よりさらにきつさを感じるのはやはり貧血のせいだろうか。どうも自分との「折り合いを付ける」のが上手くなり、すぐ納得してしまう様だ。

走り始めて間もない地点で歩いている小島さんに遭遇した。バイクの後半から脚に痙攣が起きたらしい、がそれでも「絶対完走する」との気迫を感じた。ただただ凄いと思った。

途中からは制限時間(17:00 時間)を気にしての戦いでした。夜9時を過ぎた暗闇の海岸沿いをペンライトを付けて無言で走るまばらなランナーの一人となった感触は微妙で初めての体験でした。

その反面、ゴールでは祝福と歓声に沸く人垣に迎えられ、全てを忘れて完走に酔いしれる事が出来ました。(6:36)(T16:10)1209位/1510人



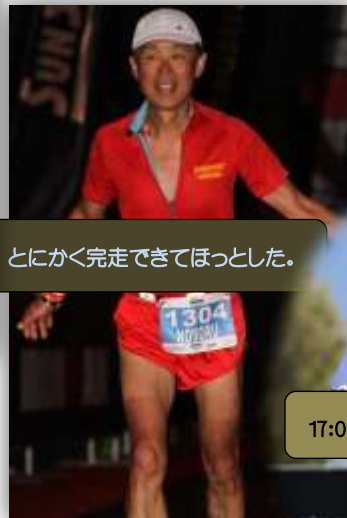
11:07 でブッチギリの優勝、
ハワイをゲットした



ピッカピカの新車で快走



レースを楽しんでいる



とにかく完走できてほっとした。



17:00 劇的な完走



最後の力走



今年も優勝しハワイをゲットした



惜しくもハワイを逃す



12/10 試合の翌日、筋肉痛はさほど無かったが(頑張っていない証拠?)足裏半面に出来た底まめが痛く歩行は一苦勞だった。のんびりとバイクやウエットスーツの後始末、パッキングをやった。夕方からは表彰式とパーティーがあった。今年は無興などは無かったが食べ物も良く華やかな雰囲気だ。日本の老人パワー?は凄い!仲間から多くの入賞者が出た。中でも、最高齢76歳の小島さんが表彰台に立った時は会場の全員が立ち上がり拍手で祝福した。



バスセルトンからバスで 3:30、空港のあるパースに到着。ほとんど時間的余裕は無かったが高台にあるキングスパークに向かった。世界でもきれいな街で知られるこのパースの街、湖の様なスワン川の展望。多分パースに来てここに来ない人はいないだろう。今年一年間の総決算で締めくくりでもある南半球バスセルトンでの、この戦いはこれで終わった。そして私の今年が終わる。